

## 投稿規定

### 1. 投稿内容

作業療法の学術的發展に寄与する論文として、「論考」「総説」「研究論文」「実践報告」「短報」（以下論文と言う）の投稿を随時受け付けます。ただし、他誌に発表された論文、または投稿中の論文はお断りします。

### 2. 著者について

筆頭著者は原則として群馬県作業療法士会会員に限ります。ただし、作業療法の發展に特に寄与すると学術部機関紙編集グループが認めた場合はこの限りではありません。共著者は県士会員でなくてもかまいませんが、作業療法士である場合は（社）日本作業療法士協会会員であることを条件とします。

なお、著者の数は名までとし、それ以上にわたる場合は謝辞の対象に入れてください。

### 3. 倫理的事項について

著者は、著作権や研究対象者の人権の尊重に努めてください。

### 4. 論文の種目と長さ

①論考：広く作業療法および関連する医療・保健・福祉の動向、政策、時流など適宜にあった話題に関する分析の総括的解説および提言をいう。

長さは、おおよそ本文、文献、図・表合わせて10枚以内とする。本文、文献は2段組とする。

②総説：特定のテーマについて、過去の研究を概観し、論評を加え、将来的展望を加える目的で書かれるもの。

長さは①に準じる。

③研究論文：実験、調査、臨床経験、理論研究などから得た新所見または見解を記述し論考を加えるもの。

長さは①に準じる。

④実践報告：臨床現場、教育現場等で実践中の作業療法（事例報告を含む）に焦点を当てた報告。

長さは①に準じる。

⑤短報：独創性のある所見、見解の速やかな発表を期待する研究報告、後に「研究論文」として書くことが期待される。長さはおおよそ本文、文献、図・表合わせて4枚以内とする。本文、文献は2段組とする。

### 5. 執筆要領

後出の「執筆要領」に従ってください。

### 6. 採否について

原稿の採否は編集グループにおいて決定します。場合により、加筆、修正をお願いすることがあります。また、編集グループの責任において、多少の字句の訂正をすることがあります。

### 7. 校正について

著者校正は原則として行いません。

### 8. 投稿の手続き

①執筆形式は執筆要領に沿っていることを確認して下さい。

②投稿にあたり、下記投稿先まで投稿論文原稿と投稿表をメールにて提出して下さい。

その際、件名に『機関誌「ぐんま作業療法研究」への投稿論文の送付』と記入して下さい。

③投稿表には、表題・論文種目・著者名・所属（上記4参照）を表記してください。

投稿表は、群馬県作業療法士会ホームページ 学術部ページよりダウンロード可能です。

④提出された原稿、図表はお返しできませんのでご了承下さい。

⑤ご連絡・問い合わせは下記までお願い致します。

《投稿先・連絡先》 機関誌編集グループ長 柳井 亮人

E-mail: akihito.f59@gmail.com

## 執筆要領

- 論文は、表題、要旨、本文、文献、図・表からなるものとします。
- 論文の本文は、原則として、まえがき、方法、結果、考察、結語が明らかになるように書いてください。
- 表題頁には表題、著者名（投稿規定2を参照）所属、論文種目、キーワード3～5つを記載してください。キーワードは日本作業療法士協会学術部発行のキーワード集（「作業療法」誌27巻第5号参照）の中から選択してください。
- 倫理上の配慮について  
論文として掲載される研究は、調査・研究の倫理的原則に従ったものである必要があります。投稿者は研究対象者の権利を尊重した表現を行う義務があります。編集グループは、必要に応じてこれらの事項に関する証明を投稿者をお願いすることがあります。
- 投稿書式
  - ①すべてワープロ横書きとし、A4用紙に上下30mm、左右25mmの余白を作る。本文はフォント10ポイント、書体はMS明朝体とする。英字はTimes New Romanを使用する。
  - ②タイトルは中央に置く（14ポイント太字）。タイトルが2行にわたる時には2行目は1行目と頭をそろえる。
  - ③著者名はタイトルから一行あけて中央に記す（14ポイント）。
  - ④要旨は著者名から一行あけて300字以内でつける。（11ポイント）
  - ⑤キーワードは要旨から一行あけて要旨の書き始め（左端）から打つ。（11ポイント）
  - ⑥所属は1頁目の脚注に入れる（10ポイント）。脚注と本文の間は横線で区切る
  - ⑦本文は22字×42行の横書き2段組みとする。（10ポイント）
  - ⑧句読点は「、。」ではなく「，．」を用いる。
  - ⑨本文には【まえがき】など小見出しをつける（小見出しはゴシック体とする）。小見出しの前は一行空ける。
- 引用・転載について  
論文作成にあたって、著作権についての配慮を行ってください。論文中に他の著作物からの引用を行なうときには、その出典を明記してください。また、認知の範囲を超えた「転載」には、著作権者やその著作物の出版社の許諾が必要です。論文が掲載されるために必要となる「転載」についての手続きは、投稿者が責任を持つこととします。
- 文献リストについて  
文献リストは引用文献のみとし、引用順に配列してください。文献の形式は下記を参照してください。著者名は5名までを記載し、6名以上は“他”とすることを原則とし、表記の形式は以下の例にならして下さい。  
〈書籍の場合〉著者名、書籍名、発行所、発行場所、発行年、引用頁（「,」「:」「.」は全角）
  - 1) 中村隆一, 斉藤 宏: 基礎運動学. 第3版, 医歯薬出版, 東京, 1987, pp. 406-413
  - 2) Reid J: Computer and occupational therapy. In Creek J (ed), Occupational Therapy and
  - 3) Mental Health. Churchill Livingstone, New York, 1990, pp. 267-288.〈雑誌の場合〉執筆者名: 題名, 雑誌名 巻: 頁 (始めの頁-終わりの頁), 発行年。
  - 4) 岩間孝腸, 原 英修, 清水 一: 座位保持機能未獲得な重症心身障害児の姿勢と感覚遊び刺激に対する反応. 作業療法11: 358-365, 1992.
  - 5) Witt A, Cermak S, Coster W: Body part identification in 1-to 2-year-old children. Am J Occup Ther 44:147-153, 1990.
  - 6) Chung JCC: Using problem-based learning (PBL) with Hong Kong occupational Therapy students: Opportunities and challenges. Asian J Occup Ther 2:10-22, 2003. (on line), available from [http://www.jstage.jst.go.jp/article/asiajot/2/1/10/\\_pdf/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/asiajot/2/1/10/_pdf/-char/ja/), (accessed 2003-12-21).
- 文章表現は以下の点に留意してください。
  - ①現代仮名遣いとし、数字は算用数字、数量は国際単位を用いる。
  - ②外国の人名には原語を用い、活字体で明瞭に書く。
  - ③術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて（ ）内に原語を入れる。日本語化しているものはカタカナとする。
- 図・表は次の点に留意してください。
  - ①図・表もデータ形式で作成する。写真は図として扱い、白黒(グレースケール)で記載しトリミングを工夫する。
  - ②図・表はすべて表題をつけ、本文中の適切な場所にあらかじめ入れる。
  - ③本文中及び欄外に図・表の挿入場所を明示する。